

日本人は、古くから「お酒との良いつきあい方」を考えてきた人種です。「酒道」の基本精神は「酔っぱらうことを目的とせず、酒をもっと優雅ですばらしいものにしよ」というものでした。

飲酒の十徳

- 一、礼を正し
- 二、労をいと
- 三、憂を忘れ
- 四、鬱をひらき
- 五、気をめぐらし
- 六、病を避け
- 七、毒を消し
- 八、人と親しみ
- 九、縁を結び
- 十、人寿を延ぶ

小泉武夫「酒の功罪」より



お酒を
良き友と
して、生
活を潤い
のあるも
のにして
いこうと
した先人達の目には、きつと
現代の過剰飲酒やイッキ飲み
の問題は嘆かわしく映るので

はないでしょうか。

ふさわしくない飲み方

- ・つい大声になっていませんか？

周りの人が迷惑と感じることもあるでしょうからふさわしい行動を心がけましょう。

・きりがなく、長く飲み続けていませんか？

多量飲酒は身体的にも悪影響を及ぼしますから長時間の飲酒は控えましょう。さらに度を超すと、「これくらいなら・・・」での、飲酒運転、酒席でのハラスメントや情報漏洩など、感覚が麻痺したり判断力が低下しますから、注意しなければなりません。

- ・イッキ飲みをさせていませんか？

急性アルコール中毒で病院に運ばれる人は、その半数が

20代の若者と未成年者で占められるそうです。「イッキ飲み」は生命の危険がありますから本人も周りの人も十分わきまえ、絶対にやめましょう。

未成年者の飲酒

最近の全国調査によると、

中学生の36%、高校生の56%が「飲酒経験あり」となっており、未成年者の飲酒の広がりや問題になっています。また、若年のアルコール依存症

につながるとして、将来への危険性が指摘されています。

適正飲酒のすすめ

社会のシステムは複雑となり、ストレスが増大している現代、そんな中で私たちの

「こころ」は疲れ、摩耗してきており、楽しい雰囲気、ゆとりとした気分浸れる一時的に必要だと誰もが感じるようになってきているのですが、

くつろぎの時を得る術をお酒以外に多く身につけることを心がけることも大切ではないでしょうか。



お酒を口にする機会が多いこの季節、美味しいお酒を身体を壊すことなく、楽しく飲んで健康に過ごすには、「自分にあつた量」を、「自分のペース」で「味わいながら」を心がけ、是非「百薬の長」にしてください。

美人沢

シリーズ那珂川町の民話 No.10

小口梅平の奥、和見境に発する溪流があり、下流には段丘が広がる。四季折々の山容の魅力に引かれ、訪れる人も多かった。この深谷が昔から「美人沢（備中沢）」と語り継がれている。

この民話は、大山津見神の姫君、姉の磐長姫、妹の木花佐久耶姫に由来する。

皇孫邇々芸之尊が佐久耶姫を見初め、父神に「后宮に迎えたい」と申し入れた。大山津見神は、これを受け佐久耶姫に磐長姫を添いて賜った。邇々芸之尊は、磐長姫の醜い容姿に耐えず、父神に戻された。磐長姫は悲しみ、都を離れ各地を訪れた末、梅平の谷の地に身を潜めた。

佐久耶姫は、邇々芸之尊と一夜の契りで懐妊。その旨を尊に告げると、「皇孫には、一夜の契りでの懐妊はあり得ない。他の神の子あろう」と、仰せられた。

姫は、悲しみの余り産屋にこもり、火を放って身の証とした。その時生まれた子が、

天神火の神三神である。
佐久耶姫は、辛苦の余り、姉君への思いがつのり、行くへを探り、梅平の谷合で再会が叶えられた。佐久耶姫は、姉姫に先きだつて后宮になったことを詫言った。姉君は、妹のやさしさにふれ、この地を居住地とされ、毎年のお出合いを誓い会われたので、この沢を「美人沢」と、呼ばれる様になった。

磐長姫は大地の神。佐久耶姫は、自然生育の神。磐長姫の「磐」は、堅固な信念・融合・永久。佐久耶姫の「花」は、静寂・美栄。二神一体での攝理。父神の思いか。

表面的な審美眼で、彩艶に落ち入り易い、私たちへの示唆物語りかとも思われる。

文化財愛護会会員

堀江孝四郎



現在の美人沢

広報文芸

俳句

書初（はつしゅ）の墨の香満つる子供部屋
 退院（たいえん）し食（た）る如く読初（よみはつ）む
 豊満（ゆほう）な乳房のごとく鏡餅
 鴨（鴨）翔（あ）ちて蘆原（あしはら）どつと夕暮（ゆぐら）る
 初鴨（はつ鴨）の来て琵琶池（びわいけ）をかがやかず
 夕映（ゆふえい）えの那須岳（なすだけ）遙か大根干（だいこんか）す

松野 久那瀬 大高 富美
 松野 星 健彦
 吉田 横山 義夫
 小川 国安 薫
 谷田 荒井 和子
 大田 荒井 大作

短歌

子供らの好まぬことを知りつつもためらいて買う「モッテノホカ」を
 詠みしうた短冊（たんぱふ）に書くその刹那（せつな）農なる我の満たされし時間（とき）

屋根低く佇める町斑鳩（まちいづな）は五重塔（ごじゆうた）の影をいたたく
 コスモス（コスモス）の花より受けるやさしさよ一人留守居（留守居）の話し相手に
 集い来しうかららの目に励（あ）まされ心無（こころな）となり手術室（おオペ）に入る

馬頭 西宮 定子
 盛泉 岡 イチエ
 馬頭 西宮 定子
 小川 佐藤佳久子
 小川 古澤 實
 吉田 塚原 タイ

川柳

新年に家族揃（そろ）って飲むお屠蘇（とろそ）
 リタイアへ一歩進める虎の年
 日向（ひなた）ぼこ苦勞話（くろうわ）の老夫婦
 山の湯（湯）に妻と至福（しふく）の雪見酒
 遣伝（やせん）子の悪い処（ところ）に灸（灸）を据え
 正月（正月）の顔（顔）を作れと初鏡
 散（ち）らかった夢片（ゆめかた）付ける三ヶ日

谷田 岡崎 友子
 大内 郡司 正幸
 小砂 笹沼 季子
 大山田下郷 佐藤 有紀
 小川 平澤 照雄
 谷田 岡崎 甫子
 薬利 大崎 克明



新着図書

那珂川町 図書館

「龍馬と弥太郎」



同し土佐藩に郷土の子息として生まれ、藩の身分制度に苦しみながらも困難を乗り越えていった坂本龍馬と岩崎弥太郎。理念も生き方も異なるが、「経済」という一点で共鳴したふたりの邂逅を描く歴史小説。坂本龍馬の生涯と、稀代の経済人・岩崎弥太郎誕生の核心に迫る！

菅野冬二／著（NHK出版）

「ロスト・トレイン」



鉄道という共通の趣味を通じて知り合った牧村と平間は、三十七歳差という年齢を越えて、親しい友人となっていた。平間は、日本のどこかにあるといつまぼろしの廃線跡の話をした後、突然行方不明となる。牧村は、平間の失踪がまぼろしの廃線跡と関係しているかと推理し、調査するのだが……。どこか懐かしい、大人の青春小説。

中村 弦／著（新潮社）

「青いトラ」



ある日、突然現れた、ひとりぼっちの小さな青いトラ。世にも珍しい「青色の珍獣」を手に入れようと、街中は大騒ぎ。トラが逃げ込んだ、ヨハンカとマチアッシュが暮らす古い植物園では、不思議なことが起こり始めた！

テレザ・ホルヴァートヴァー／著（求龍堂）

- ◇ 「カラーひよことコーヒー豆」 小川洋子／著（小学館）
- ◇ 「悪武蔵」 小嵐九八郎／著（講談社）
- ◇ 「野生動物のお医者さん」 齊藤慶輔／著（講談社）
- ◇ 「静人日記」 天童荒太／著（文芸春秋）
- ◇ 「天才までの距離」 門井慶喜／著（文芸春秋）
- ◇ 「ハッピー・リタイアメント」 浅田次郎／著（幻冬舎）
- ◇ 「敗者復活」 藤田宜永／著（徳間書店）
- ◇ 「ゼフィラム」 榎 周平／著（朝日新聞出版）
- ◇ 「球体の蛇」 道尾秀介／著（角川書店）
- ◇ 「めくらやなぎと眠る女」 村上春樹／著（新潮社）
- ◇ 「すきやき」 楊 逸／著（新潮社）
- ◇ 「十二支の四字熟語」 諏訪原研／著（大修館書店）
- ◇ 「正月はなせめでたいか」 岩井宏実／著（大月書店）
- ◇ 「絶品手づくりこんにやく」 永田勝也／著（農山漁村文化協会）
- ◇ 「風邪とこはん」 渡辺有子／著（筑摩書房）

